

### 開館10周年を記念して

当館は平成6年11月1日の開館以来、村民の皆様をはじめ、多くの関係の皆様にご支援をいただきながら、着実に歩みを進めてまいりました。特に、平成15年2月には所蔵資料の一部が「北上山地川井村の山村生産用具コレクション」として国の重要有形民俗文化財に指定されました。これは北上山地の厳しくも豊かな自然に育まれてきた先人たちの知恵の結晶ともいえる民俗資料が国の宝物と認められた、村民の誇りとなる出来事でした。

開館10周年を記念して、国指定となった9分野の民俗資料の中から農耕、特に本村での暮らしの根拠を支えつづけた「畑作」をテーマに企画展を開催いたしました。内容は先人たちの知恵が詰まった畑作用具に加え、1年を通しての畑仕事の手順や、自然から経験的に培われた「こよみ」について紹介したものです。

展示にあたって、平成13年度から村内で活動を続ける「伝統的食文化伝承活動講座」の受講生の皆さんの多大なるご協力をいただきました。このグループは実際に畑でヒエ、アワやソバなどの雑穀を栽培し、調理までを可能な限り昔ながらの方法で行い、その記録を伝承することを目的に活動しています。

そして企画展開催中には村内の小中学生に解説会を行いました。解説会では「伝統的食文化伝承活動講座」の皆さんが「ヒエマキザクラ」などの畑仕事の目安となった「自然のこよみ」について説明した後、ヒエのだんご(クルミ味噌をつけて焼いたもの)を作ってごちそうしました。おそろおそろ箸をつけた小中学生からは「意外と美味しい」と驚きの声があがっていました。

### 開館10周年記念企画展

### 「川井村の暮らしのこよみ — 畑仕事を中心に —」

平成16年10月15日～11月24日



図録(館内にて配布中)



道又の畑で作業をする様子  
(「伝統的食文化伝承活動受講生の皆さん」)



展示の様子(ヒエしま、ソバしま)



展示解説会の様子

### 川井村北上山地民俗資料館のあゆみ

平成6年11月

7年2月

3月

4月

4月

7月

10月

10年10月

9年11月

11年4月

10月

12年5月

10月

14年3月

5月

11月

11月

2月

3月

6月

10月

11月

16年4月

5月

7月

10月

10月

「川井村北上山地民俗資料館」オープン(1日)

第1回企画展「フェルト工芸」

『北上山地民俗資料館ガイドと資料目録』刊行

第2回企画展「北上山地のこもりたち」

実測図業務委託開始(工房びの〜H9年度、H10年度〜14年度一斉舎)

館務実習の受け入れ開始、岩大実習生による聞き取り調査開始

第3回企画展「北上山地の樹皮文化」

第4回企画展「大圓寺六〇〇年祭」

第5回企画展「郷土の森林と樹木展―原色木と巧緻な接ぎ手」

国庫および県費補助を受けて資料台帳整備作業を開始(3カ年)

第6回企画展「郷土の森林と樹木〜川井村の名木」

特別展「川井村の文化財調査の歴史」

第7回企画展「川井村のワラビ根利用〜ワラビの根を打つてみよう」

国庫および県費補助終了(平成11年から3カ年)

図書館バス運行にともない村内小中学生の入館料を無料化(11日から)

国指定申請資料提出(文化庁へ郵送)

文化審議会答申(文部科学省・17日)

国指定官報告示(平成15年2月20日付け文部科学省告示第24号)

国指定指定書交付式(東京・26日)

『平成14年度国指定重要有形民俗文化財「北上山地川井村の山村生産用具コレクション」』刊行(村教委)

実測図講習会(Ⅰ)開催(年間9回)

第8回企画展「暮らしを支えた技術―今なお息づく伝統の技」

国指定記念講演会・祝賀会

ホームページの公開

実測図講習会(Ⅱ)開催(年間9回)

村立川井中学校実測図作製(総合学習の受け入れ)

第9回企画展「川井村の暮らしのこよみ―畑仕事を中心に―」(15日〜11月24日まで。開館10周年記念)

## — 小さな勉強会 —

生涯学習活動総合事業「川井村ふるさと学園」共催

村内の高齢者の方々に昔のくらしのひとコマをお話していただきました。次に紹介する事業は、村内の小中学生を対象に図書館向けスクールバス運行日に併せて「川井村ふるさと学園事業」などと共催で行ったものです。



実際に「いつこ」作りに携わった「ふるさと工芸クラブ」の皆さんからは、昔の子育てにまつわる思い出や子守唄などを伺いました。



江繋地区寿学級で実践した昔ながらのトチの実の加工については、少し苦い「トチだんご」の味見と一緒に話を伺いました。



「食文化伝承活動講座」の皆さんからは、冬の気候を利用して作られるアワの凍み餅を試食しながら昔のおやつについて話を伺いました。このほかにも資料館の展示資料について知っていることを話し合うなど、第二・四土曜日、時間にして20分程度の小さな勉強会でした。



たが、子どもたちは、お話にあわせて実際に体験や試食をすることで、さまざまな感想を持ったようです。ご協力くださった皆さん、ありがとうございました。



館務実習聞き取り調査の様子

## 館務実習から

岩手大学人文社会科学部学生が、Ⅰ期(8月5日～7日)22名、「Ⅱ期(8月25日～27日)17名資料館を訪れました。1日目の資料整理では、これまで館に蓄積されていた実測図の整理を行いました。2日目の聞き取り調査では村内7名の方にご協力をいただき121点の生活用具について記録を行いました。3日目は食文化伝承活動講座の皆さんの協力、雑穀畑の見学やソバ打ち体験などをし、全日程をとおり館内実務や地域の文化に理解を深めたようです。

8月24日～30日には盛岡大学の学生1名が館務実習を行いました。実務として文化財に関する報告書や民俗資料の登録作業、子どもたちを対象とした展示資料の解説を行ったほか、村内の方に教わりソバ打ちや聞き取り調査を体験するなど学芸員の仕事の一端を実習しました。

## 村立川井中学校総合学習での取り組み

「先人の業に学ぶ～ものと語ろう」をテーマに川井中学校の3年生が総合学習で実測図作製に取り組みました。資料館の展示物の中から作図する資料を選び、2人一組で作業を進めました。講師は当館名誉館長の名久井先生です。三角スケールを使い、大学生や研究者が行うのと同じ方法で作業を進め、どのペアも元図作製からトレスまで仕上げました。

実測図作製にあわせて聞き取り調査も行ったそうです。11月の発表会では実測図作製や聞き取り調査について「聞き取りで、外から見えないところも聞くことができてよかった」「難しかったけれど、最後まで完成できてよかった」「持つところに光沢があった、昔の人が一生懸命働いていたことに気付いた」などの感想が発表されました。

作図した資料と実測図は3月いっぱい資料館2階ロビーに展示しています。



三角スケールを使って作業



トレス作業の様子



展示の様子

## 実測図講習会 (II)

今年度も一般の方を対象にした実測図講習会 (II) を開催しています。今年度は民俗資料の実測に加えて聞き取り調査を行い、昨年度に引き続き成果をまとめる予定です。

前年度の成果は手製の実測図集にまとめることができました。巻頭で講師の名久井先生は、川井村の人々が村に伝わる民俗資料の実測図を作製する意義を次のようにおっしゃっています。

「地域の過去の営みをより深く理解できる資料を管理保管していくこと、あるいは記録保存していくことの重要性を認識できる、またとない機会」

### 作製した実測図集から



## ホームページ公開



平成16年4月1日から当館のホームページを公開しています。

館の概要や活動を紹介する他、平成14年度に国の重要有形民俗文化財に指定された「北上山地川井村の山村生産用具コレクション」についても指定となった資料の一覧や実測図などを掲載しています。アクセス方法は次のとおりです。どうぞご覧下さい。

川井村の公式ホームページ (<http://www.vill.kawai.iwate.jp/>)

→ 観光情報 → 北上山地民俗資料館

### 平成16年度の入館者数 (4月～2月) (名)

一般	学生	児童	団体	計
718	7	※208	753	1,478

※うち図書館バス運行日150名

伝票番号 3839 (国指定重要有形民俗文化財)  
 資料名 木かんじき・雪かんじき  
 寄贈者 佐々木卯三郎  
 材質 イタヤカエデ、シラクチ、コウドク

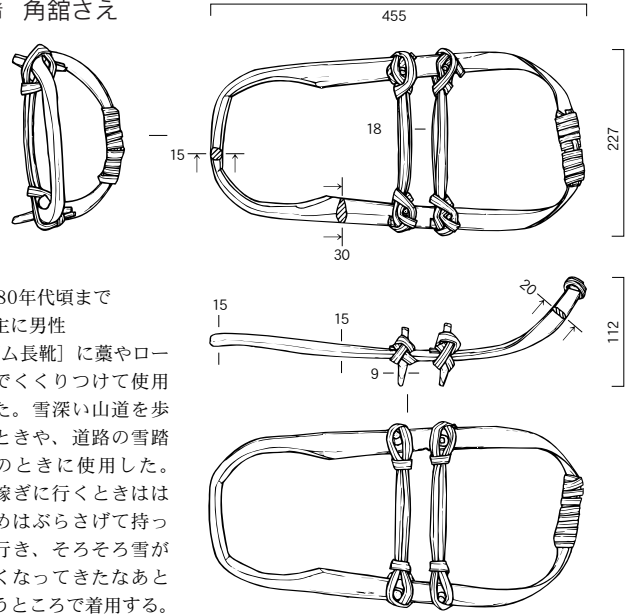
製作地・場所 山  
 製作年代 1960年代  
 製作・入手方法 イタヤを[鉈]で割って形を整える。火であぶってやわらかくなったら丸く形を整えて紐で縛って固定する。足を載せる場所を作り、止め具で止める。止め具はコウドクと呼ばれる堅い材を使用している。最初はオノオレカンパだったが、折れやすいため自分で工夫してコウドクを使用した。

作図者 角節さえ

資料15

使用地・使用場所 山  
 使用年代 1980年代頃まで  
 使用者 話主に男性  
 使用方法 [ゴム長靴]に藁やロープでくりつけて使用した。雪深い山道を歩くときや、道路の雪踏みのときに使用した。山稼ぎに行くときははじめはぶらさげて持って行き、そろそろ雪が深くなってきたなあというところで着用する。

話者 佐々木卯三郎  
 聞き取り調査者 小川いつか



今号では[かんじき] (木製・金属製) を紹介します。

金属製の[かんじき]は、今でいうとゴム長靴についているスパイクのようなもので、滑り止めの役割をするものです。

木製のものは[輪かんじき][おおあし]とも呼ばれたそうです。今年の冬休み工作教室では子どもたちが小国地区公民館で[輪かんじき]を作り、実際に雪の中を歩く体験をしました。講師の高屋喜多男さんから「みんなのお父さんお母さんが小さい頃は、朝雪が積もっていると、学校までの道路を、[かんじき]をはいた大人が雪を踏み固め、その後を子どもたちがついて歩いた」というお話を聞きました。



かんじき作りの様子



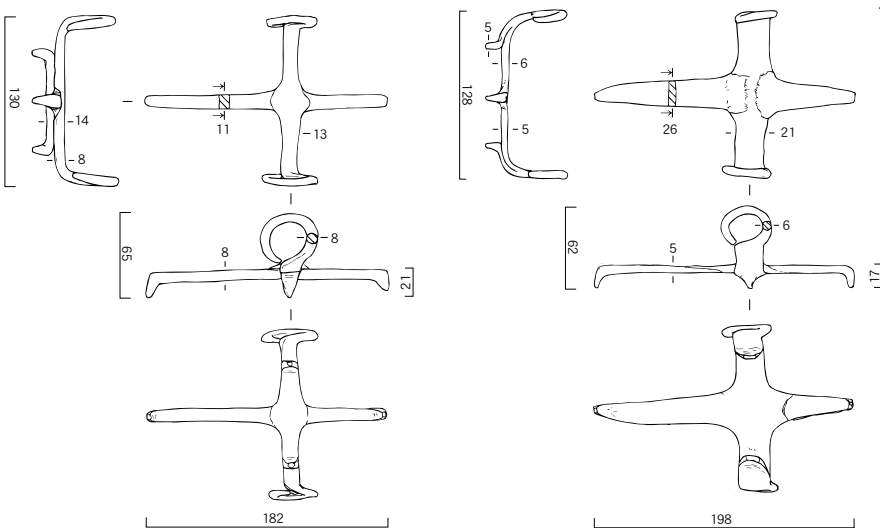
[輪かんじき]をはいて雪の上を歩く体験をした子どもたち

資料16

伝票番号 2139-1・2 (国指定重要有形民俗文化財)  
 資料名 かんじき  
 寄贈者 榊原啓一  
 製作地・場所 地元の鍛冶屋  
 使用地・使用場所 冬の山の伐採現場。  
 使用年代 昭和36~40年。その後はブルドーザーに替わり、あまり使用しなくなった。

使用者 話者  
 使用方法 冬の伐採現場で材木を[槍]に積み、降りる際に[ぼっこ靴(ゴム長の短くて厚手のもの)]にフジの皮に結わえ付けて使用。とがった鉄爪の部分はブレーキというよりは、動かすときに踏ん張りがきいた。長い方にかかどが着く。  
 備考 一人で複数持つような消耗品(耐用年数1年)。すぐに折れてしまったり、脱げてしまったりで1年に何足も使用した。脛には[はばき]を付けて保護した。

話者 榊原啓一  
 聞き取り調査者 菅原圭子



作図者 野澤裕美